

KUMAGAYA SOUTH Rotary Club of Saitama RI Dist. 2570



2011. 10. 26

President : Tsuguhiro Shimazaki
Secretary : Naoyuki Okuda
Hotel Garden Palace
Sayada3248-1 Kumagaya shi

No. 15



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

Kalyan Banerjee
RI President, 2011-12
Masao Tachihara Gouverneur
RI Dist 2570

第656回例会 会報



米山奨学生卓話



本日の卓話は秩父ロータリークラブの米山奨学生の【周 大亮】様にお願ひ致しました。周さんは駿河台大学経済学部経済経営学科に在籍しています、堪能な日本語で食と文化の卓話をして頂きました！

本日のプログラム 11月2日(水)
親睦例会

会長挨拶

会長 島崎 次弘



皆さん今晚は、地区米山記念奨学部門委員長「大澤衛様」、米山奨学生「周大亮さん」、ようこそお越し下さいました。あとでご挨拶と卓話をよろしくお願ひ致します。今日は2週間ぶりのガーデンパレスでの例会です。その間にもロータリーに関係する行事がいくつかありましたのでその報告をさせていただきます。

まず、14日の金曜日「さくらめいと」で「第17回地域安全・暴力排除推進大会」が開催されました。これは当クラブが毎年協賛している大会で、今

年は当クラブが協力団体を代表して、壇上に上がって感謝状を頂戴致しました。

翌日の15日の土曜日には、本庄早稲田リサーチパークにおきまして地区主催の「第2回会員増強セミナー」が開催されました。これにつきましては、この後委員会報告で棚澤委員長から発表して頂きます。

またその翌日の16日の日曜日に、熊谷商工会館で熊谷市国際交流協会主催の「第19回外国人による日本語スピーチコンテスト」が開催され、熊谷南RC賞を差し上げて参りました。去年は、当クラブでお世話をしていた米山奨学生の金善花さんも参加しましたので、当クラブからもたくさんの方に応援に行って頂きましたが、あれからもう一年経ってしまったのですから、年月の流れるのは早いものだと改めて思います。

スピーチコンテストには今年も8カ国18人の外国人の方の発表があり、それぞれ個性を活かしたお話でももしろかったです。

いくつか例を挙げると、ある中国の女性の日本に来て仕事に就くのに50回位面接をしてやっと雇ってもらったという苦労話や、カナダの男性は日本語の発音の響きがきれいで気に入っていて、カナダのシンボルであるメープルにちなんで、日本で生まれたお嬢さんに「かえでちゃん」と名付けたそうです。

また、韓国から来た若い男性は、日本人の社会性と自然を大切にすることに感心して日本に留学生として来たそうで、福島原発の事故に遭遇して原発推進に鋭い疑問を呈しておりました。

中でも面白かったのは、スウェーデンの男性で、彼は日本に来たばかりの頃レストランや仕事先での会話で、まだうまく日本語がしゃべれずに意味が通じないで悪戦苦闘している時になぜか必ず相手の日本人が「日本語お上手ですね」と褒めてくれたそうです。ところが最近だんだんちゃんと話せるようになってきたら、誰も褒めてくれない。下手に通じない時はあちこちでお上手ですねと褒めてくれたのに、うまくなったら誰も褒めない。他の国では通じないものは通じないとはっきりストレートに言うのが当たり前なのに、日本人は反対のことを言う。これはなぜなんだろう。彼は日本に来て一年半ずっと悩んでいたそうです。最近になって、これは相手が苦労しているのを見て、焦らせないようにと、慰めと励ましを込めた、日本人独特の気配りなのだとようやく理解できたそうです。理解できればそれはそれで日本人の美德とも思えますが、多くの外国人にはなかなか理解するのは難しいそうです。ですから逆に日本人が外国に行った時は気をつけなければならない。その気配りは日本の社会では通用しても、外国に行けば、こちらは気配りをしたつもりでも深刻な意見の食い違いや対立になってしまう危険がある、ということでした。

本日は米山奨学生の「周 大亮」さんに卓話をお願いします。周さんも日本に来て感じたことや将来の夢など多めに語って頂きたいと思います。また、部門委員長 大澤様にはどうぞお手柔らかにお願い致します。 以上で挨拶とさせていただきます。

幹 事 報 告

幹事 奥田 尚幸



1. 地区より

*会員増強セミナーの御礼

2. 熊谷市コミュニティづくり市民協議会より

*第30回コミュニティ活動実行賞表彰式について (御案内)

3. 熊谷東 RC より

*創立 35 周年記念式典のご案内

4. 財) ロータリー米山記念奨学会より

*ハイライトよねやま139

以上が届いております。

卓 話

米山月間卓話

米山記念奨学部部門委員長 大澤 衛 様



“何ごとも人々にしてほしいと望むことは、人々にもその通りにせよ”

米山梅吉

世界の平和を願って—なぜ留学生支援なのか—

「今後、日本の生きる道は平和しかない。それをアジアに、そして世界に理解してもらうためには、一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築くこと。それこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか」。

事業創設の背景には、当時のロータリアンのこのような思いがありました。敗戦後の復興が続く 1952 年、東京ロータリー・クラブの会員によって「米山基金設立」の構想が立てられました。米山梅吉氏没後 6 年のことです。そこには奨学事業を通じて、世界に“平和日本”の理解を促す願いがありました。このようにして、東京ロータリー・クラブから始まった事業は、その後、日本国内全クラブの合同事業として発展しました。

それから 50 年以上の歳月が流れましたが、“民間外交として世界に平和の種子を蒔く”という米山奨学事業の使命は一貫して変わっていません。むしろ、今日の世界情勢と日本の置かれている状況を考えるとき、その使命はますます重要性を増しているのではないのでしょうか。

留学生への支援は、未来に向かって平和の懸け橋をかける尊い奉仕なのです。

“月に煙草一箱を節約して”というスローガンから始まった米山奨学事業は、設立以来、累計で奨学生数 15,776 人、国籍別では 119 カ国となり国内最大の民間奨学事業となっています。

(2010 年 4 月現在)

ロータリー米山記念奨学会は、将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。ロータリー・クラブを通して日本の文化、習慣などに触れ、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人となることが期待されます。学業に対する熱意や優秀性はもちろんのこと、異文化理解、コミュニケーション能力への意欲や能力に優れている点が含まれております。

第 2570 地区

過去 5 年間にわたり、地区目標額 3,500 万円にしてまいりましたが、前年度末合計金額は、2,711 万円一人当りの寄付金額は 15,154 円でした。一人当たり 2 万円を超えるクラブが 9 クラブもありましたが、一方「特別寄付金」が「0」のクラブが、8 クラブあります。全国的に見ましても、増額している地区、減額している地区と両極端に分かれてきているようです。今年度も目標額は、3,500 万円に設定させていただいておりますが、地区の会員数が 1,750 名を割りましたので、一人当りの目標額は 2 万円超となります。全会員一人ひとりの、ご協力をよろしく願い申し上げます。

2010 年 1 月より普通寄付金も、各クラブ事務局さんからの申告となりますが「申告用領収書」が発行されております。なお、特別寄付金については、従来通りに寄付金から 2,000 円を差し引いた金額が年間所得総額から控除されます。年間所得総額の 40 パーセントが上限となります。因みに、年間所得総額が 1,000 万円の方が 10 万円寄付をされた場合、約 32,340 円が控除されます。法人寄付の場合は、一般の寄付金損金算入限度額とは別枠で損金算入できます。これにより、法人税額が軽減されます。その他「遺言による特別寄付」は、相続税が軽減されます。また、相続人が遺産相続の後、ご寄付された場合は相続人の所得税控除の対象となります。

申告用領収書の発行については、翌年の 1 月末までに、各クラブを通してお届けします。法人の場合は、その都度、申告用の書類を発送いたしております。

ご存知の通り、奨学会の財政については、全国のロータリアンからいただく寄付で支えられております。予算に満たない部分は、不足分を流動資産より補っております。資産運用については、国債などの元本償還の高い方法で運用しており、評価損益もプラスになっております。文部科学省を主務官庁とす

る現在毎年度、「収支報告」を各クラブ始め公表しており、いただいた寄付金は、すべて奨学生のために使っていることを、ご報告申し上げます。

「未来へかける平和の架け橋。米山記念奨学事業を支えるのはあなたです!!」

ご清聴ありがとうございました。今後ともご協力のほどをよろしくお願いいたします。

日中の食文化の違い、米山奨学生感想

米山奨学生



周 大亮

みなさん、こんにちは。中国の大連から参りました周大亮と申します。現在駿河台大学経済学部経済経営学科 3 年生です。四月より秩父ロータリークラブでお世話になっております。米山奨学生に選ばれて大変光栄を持っております。言葉で言い尽くせないほど、感謝しています。ここでもう一度心をこめてロータリーアンの皆さんに感謝のお辞儀をさせていただきます。今日は日中両国の食文化の違い、そして米山奨学生になってからの感想について述べさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

中国人と日本人は同じアジア人であり、今から 1000 年以上前に日本の留学生がたくさん中国をおとすれました。留学生たちは中国で学んだいろいろな制度や文化を日本に伝え、中国の文化は日本の文化におおきな影響を与えました。日本の古代の都の京都も奈良も中国の長安を真似て作った町だそうです。このように

日中文化には似ているところもありますがやはり違っているところもずいぶんあります。例えば食文化の違いです。

中国では地域によって食文化が違います。中国では北のほうの主食は麺（と饅頭）で南のほうの主食は米です。けれども違う種類の主食は一緒に食べないのは北も南も同じです。しかし日本では

違います。レストランでよく聞いたのはラーメンとチャーハン餃子のセットのメニューで、最初に日本のレストランに行った時、これを一緒に食べるのかとびっくりしました。でも何回を試しに注文して食べたら、意外に美味しいと思いました。ちなみにラーメンを食べているとき、日本では音を立ててもかまいません。しかし中国では音を立ててはいけません。他にも、お酒を飲むとき、日本で乾杯というとならずしも全部飲まなくてもかまいません。なぜかという日本での乾杯はみんなで一緒にお酒を飲みましょうという合図にすぎないように思えます。しかし中国ではお酒をすべて飲み干さなければなりません。

一番気になるのは日本で仲間同士一緒に外食する時みんな割り勘にする事だと思います。不思議なのは恋人も割り勘することです。中国ではもし仲間同士で外食したら一人が勘定をはらいます。特に恋人同士としたら必ず男のほう会計をします。

果物と魚を食べる時はどうか。中国ではトマトやスイカを食べる時は砂糖をつけて食べます。日本の場合塩をふりかけて食べます。また、骨や皮はどこに置くのか？中国ではテーブルの上においてもかまいません。日本ではその様な行いは行儀が悪く、自分の皿の隅か専用の皿に置かなければなりません。その上、日本料理は目で楽しむ料理だという人もいます。盛り付けにきくばりが感じられます。

このように食文化は毎日私たちの生活に密着していることがらなので異文化の理解とコミュニケーションの糸口としては最適だと思います。実は日本の食べ物は私たちの生活にも入ってきました。中国の上海、大連で日本のおでんとたこ焼きは結構流行っています。ただし郷に入っては郷に従え、おでんとたこ焼きは日本の食べ物ですが中国人の好みに味を改良し口に合うようにして売られます。日本の中華料理は中国の中華料理ではない、やはり日本人口に合う中華料理が多いと思います。これは文化の相互理解だと思います。もし日本で鶏の足と頭を売ればきくと食べる人は少ない、逆に中国でイクラ、納豆、マヨネーズを売ればきくと食べる人は少ないと思います。

日中文化はどちらも尊重すべき文化であり、どちら正しいか間違っているということではありません。大切なかはどこに違いがあるのかを知る事だと思います。これから日本の食文化以外の日本文化も深く理解するためにがんばりたいと思います。

最後は米山奨学生になってからの半年で、自分が何を勉強したのかそして何を感じたかについて述べさせていただきます。来日してから毎日、学校とアルバイトだけの生活が続きました。最初

の一年間は夜勤アルバイトをしていましたが、正直本当に辛かったです。その辛さと苦しさはいまでもはっきり覚えていいb kます。私が当初思っていたような日本の文化に触れ、各国の友達ができるような留学生活とはまったく違い、「本当にこのままの留学生活でいいのか？」と煩悶していた時期も事もありました。

幸いにロータリー米山奨学生として選んで頂き、ロータリーの行事に参加する機会をあたえられ、他の留学生より日本の方と触れ合う機会も増え、日本人の生活や考え方や習慣がわかるようになってきました。「秩父音頭祭り」、「米山研修」等様々な行事にも参加させていただきました。一番印象に残ったのは秩父音頭祭りで盆踊りを踊った事でした。米山奨学会ならではの体験ができた事だと思います。さらに、各国から来た奨学生とも交流ができ、日本以外の国との文化交流もできました。

ロータリー米山奨学金はただ経済的に支えただけではなくて、世話クラブとカウンセラー制度によって奨学生は毎月一回世話クラブの例会に出席させていただきます。そこでカウンセラーやロータリアンとの心触れ合いを通して真の国際文化交流及び相互理解を深め、ロータリーの奉仕の心を学ぶ事ができます。お世話になっている秩父クラブのロータリアンのみなさんが優しく接してくださり、例会に出る時やクラブのイベントに参加する時にもみなさんがいろいろに声をかけていただきました。私のカウンセラーは優しい三上さんという方です。三上さんから日本人と大自然、また「情」と「人」という字の意味を教わりました。

ロータリー活動の中で気に入っているのは「四つのテスト」です。

- 1、 真実かどうか
- 2、 みんなに公平か
- 3、 好意と友情を深めるか
- 4、 みんなのためになるかどうか

私は日本で就職したいと思っています。自分は今から四つのテストに照らして行動したいと思っています。本番目前の就職活動のために努力する覚悟です。日本で習ったものを、日中友好のために生かし、また、日本人の仕事に対する熱心さ、真面目な態度などを中国の若者達に伝えていきたいと思っています。将来にわたって仲良くし、中日友好の懸け橋になるよう精一杯頑張りたいと思います。以上です。ご静聴ありがとうございます。

委員会報告

地区セミナーで発表する山口部門委員長



● 出席報告

例会日 10月26日

会員数	出席	欠席	MU	出席率
27	15	12	0	56%

お客様：米山奨学生 周大亮様

RI 第2570 地区米山記念奨学委員会部門委員長
大澤衛様



● ニコニコBOX



米山記念奨学部門委員長・大澤衛様

本日は、米山月間の卓話に伺いました。よろしくお願い致します。

島崎次弘会長・奥田尚幸幹事

地区米山記念奨学部門委員長 大澤衛様、米山奨学生 周大亮さん、本日はようこそ熊谷南ロータリークラブへ。卓話よろしくお祈いします。ゆくり楽しんで行って下さい。

山口茂会員

周大亮さん、ようこそいらっしゃいました、本日の卓話を楽しみにしております。大澤米山奨学部門委員長様、遠い所ありがとうございます。地区では色々と大変お世話になっております。今後ともよろしくお祈い致します。

棚澤正行会員

米山奨学部門委員長大澤衛様、周大亮様、卓話よろしくお祈いします！

高田直樹会員

皆様今晚は、今日は米山月間という事で、地区より米山記念奨学委員会部門委員長の 大澤衛様、米山奨学生の周大亮様、ようこそ熊谷南 RC へお越しいただきました。ご指導、卓話宜しくお祈い致します。

矢部喜明会員

欠席が続いてしまいました。本日は、よろしくお祈いします。

石井一則会員

米山奨学部門委員長大澤様、米山奨学生の周さん、御来訪ありがとうございます。周さんの卓話楽しみにしています。

塚越尚之会員

忙しい一日でした。本日もよろしくお祈いします。

中島勉会員

体調不良の為、出席できません。次週よろしくお祈い致します。

【奥様誕生】

李一孝会員

妻に美しい花をありがとうございます。

熊谷南ロータリークラブ

会報・広報 (IT) 委員会 石井一則・塚越尚之
小野寺弘行

TEL 048-522-6143 FAX 048-522-6153

E-mail: ksr@kumagaya-south-rc.com